

| | |
|--------------|---|
| Title | 〈作家紹介〉ルードウィヒ・シャフラット |
| Author(s) | 鈴木, 佳子 |
| Citation | デザイン理論. 1982, 21, p. 120-122 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/52686 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

作家紹介

ルートヴィヒ・シャフラット Ludwig Schaffrath

東北新幹線が開業され大宮駅が新装された、その駅のコンコースの正面に大きなステンドグラス設置された、その制作者がシャフラット氏である。

現代ステンドグラスは、第二次世界大戦の後フランスを中心に花ひらいた、もちろんアイルランドのサラ・パーサーなどはそれより半世紀も早く活動しているけれど、フランスやドイツは20世紀も中頃をすぎて本格的なステンドグラスの復興を見る。20世紀の教会には、第一次、第二次世界大戦で破壊された幾百幾千もの窓があり、それらを作り直す必要があった。それらの多くのものの中には、平凡な模倣も多かったが、教会側にも信仰する宗教に関りなく、著名な芸術家を登用し、新しい実験がなされた。マネジェ、パゼーヌ、マチス、シャガール、ブラック、レジェたちフランスの作家たちである。また技法の面でもダル・ド・ヴェールのと呼ばれる方法が開発された。（この革新的な技法はビザンチン世界で用いられたものの今日的方法で2～3cm厚みのガラス片をコンクリートか、エポキシ樹脂の中にはめ込んで固める……この技法はフランスからアメリカに渡り全盛となる）

一方ドイツの建築家は大战によって破壊された教会の再建の時、窓に、特にステンドグラスの壁をもうけて、建築との合一を考えた。それはフランスのものとは異りドイツの独特のものとなった。

第一次大戦前にはキュビスト的デザインで知られる、ヤン・トルン・ブリッカーがおり、第二次大戦との間にブリッカーの弟子のアントン・ヴェンドリンクが多数のステンドグラスを作っている。ブリッカーと現代の作家たちを結ぶゲオルグ・マイスターマン（ケルン・カルクのザンクト・マリア教会の作品）のドラマチックな作品がつづき、その後にはルートヴィヒ・シャフラット、ヴィルヘルム・プシュルテ、ヨハンネス・シュライターが現代ドイツを代表するステンドグラス作家である。

建築との調和という観点から、新しく明解な方向性を打ち出した作家といえばシャフラットが第一人者である。

1924年 アルスドルフ生れ（西ドイツ）

1947年 シェリユーテル・シュレ卒業

1947～1954年 アーヘン工科大学建築学部でヴェントリンク教授の助手

1954年 アルスドルフ・オフデンで創作活動開始

1970年～ イギリス・アメリカで教える

1981年 オーストラリアで教える

建築の仕事をしていて、シフラット氏は自分の作品をガラスでもって表現したいと考えた。29才の時である。その頃のドイツは第二次世界大戦でどこもかしこも破壊されていた。まず自分達の身の回りの教会から氏は仕事を始めた。「大戦後の打ちひしがれた中で、いかにして人々の心を立ち直らせ、また国の復興を図って行くか……そういうところから私の創作活動も始まりました。」とシフラット氏自身が語っている。作品のテーマも、「鎮魂」「亡くなった同胞への悲しみ」「二度と戦争のないように」という、次に「明日への希望」そして、現在のテーマは「オアシス」（人々が憩えるような感情を）です。

シフラット氏はステンドグラス作家とは称していない、一つの手法としてステンドグラスの仕事をしているのでステンドグラスだけが自分の領域だとは考えないが、ステンドグラスの手法を用いる時は絵具や石材、木材などで表現出来ないものを表現する時で、朝の光、そして嵐の日、冬の日……それらの光によって表現されるものが、異ってくるおもしろさを考えているのです。

mit Licht gemalt（光が共に描いてくれる）という。

シフラット氏の作品は特に円と円弧を用いた線の変化を展開する、また流れるような線は独特の空間を作り出している。また色彩に対しても白に対比的な黒と灰色を主張に用いて色彩を節する作品も多くある。

今回の大宮駅のステンドグラスのテーマは「光と水と生命」で今までに用いられた技法を全部とはいわないが、多く用いているので、これからステンドグラスの仕事をしようにする人々に大きな影響を与えることになると思われる。

◆主な作品

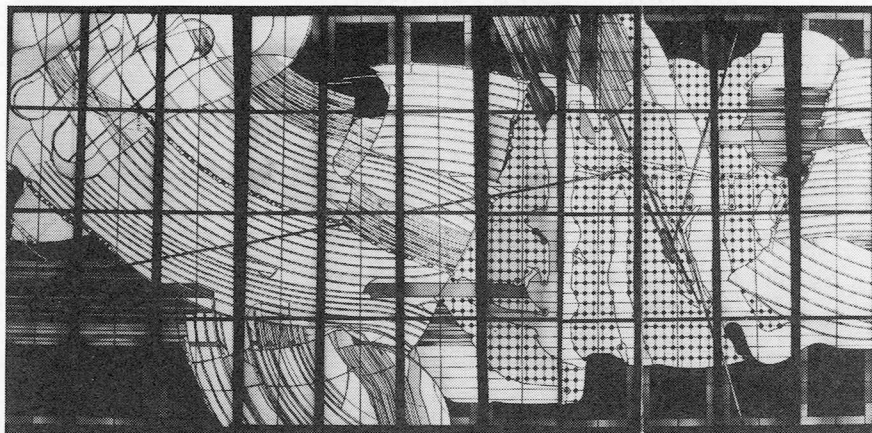
アーヘン大聖堂回廊（1962～65）

パプストヨハネスハウス（クレフェルト、1968）

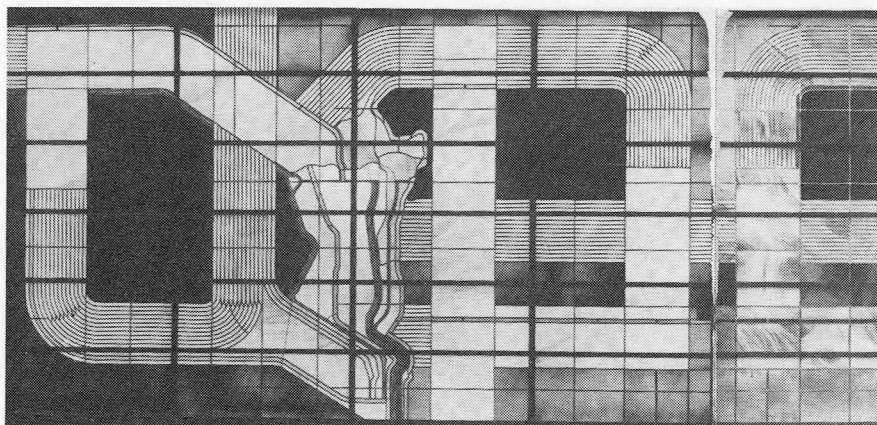
st. マリア寺院（バードツビッシェンアーン、1970）

st. アントニウス病院 モザイクとステンドグラス（エシェヴァイル、1971）

アルスドルフ Rathaus モザイク（1971）



東北新幹線大宮駅 ステンドグラス 1982 (部分)



ウーパッハー Palenberg 1972 (部分)

Christi-Geburt クリスティゲバルト (ケルン・メンゲルニヒ, 1971)

st. ヨハネス寺院 (ドルトムント・クール, 1972)

st. アントニウス寺院 (ハーゲン・カーベル, 1974)

st. ヨゼフ寺院 (アーヘン, 1971~75)

ギムナジウム モザイク (バエスヴァイラー, 1976)

(鈴木佳子)